



あしこだより

令和7年度6月号
発行者:石井 美佐子

進んで考え学ぼうとする子・仲間と関わる子・たくましくチャレンジする子

6月も下旬に入りますが、梅雨前線はどこへ行ってしまったのかと思われる、真夏のような日々が続いています。登校下校時には、日傘をさしている子が増えてきました。校帽をかぶって、さらに日傘をさしている子もいるのですが、その中には、真っ赤な顔をして登校してくる子もいます。学校のルールを守りつつ、熱中症対策もして、本当に大変だと思います。日傘で日差しがさえぎられているので「暑かったら校帽を外してもいいよ」と声をかけることもあります。日傘などのグッズや帽子を上手に使ってくれればと思います。

また、本校の校帽はナイロン製で水には強いようなのですが、通気性が悪いようです。そこで、校帽を販売している「マルク」さんに相談し、一部をメッシュにした帽子の見本をつくっていただきました。冬は少し寒いかもしれませんが、夏の暑さ対策を優先して、次年度の新入生からはメッシュを使用した校帽に切り替えたいと考えています。先日開催した学校運営協議会でも委員の皆様にも見ていただき、賛同を得たところです。できれば性別に関わらず、同じ型の帽子にしたいと個人的には思いましたが、予算面で難しいようです。繰り返しになりますが、キャップ型・ハット型のどちらを選んでいただいても構いません。お子さんがかぶりたいと思うものをご購入いただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。



試着してもらいました。
「涼しい」「風が通る」とのこと

インクルーシブ週間を設定しました

学校 HP でもお知らせしましたが、今年度、本校では「インクルーシブ週間」を設定しました。インクルーシブ教育は、障がいの有る無しにかかわらず、そして国籍や文化、言語、性別等に関わらず、すべての子どもがともに学び合い、支え合い、ともに成長していく教育のあり方です。皆ができるだけ同じ場で、互いの違いを理解し合い尊重し合いながら学ぶことをめざすものです。私は「インクルーシブ教育」は、全ての人々が人としての尊厳や権利、幸福を保障するための教育である「人権教育」にも通じるものだと思っています。一人一人の人権が守られ、一人一人が個人として尊重される社会をつくるためには、ともに学びともに育つ、というインクルーシブ教育の意義はとても大きいものと考えます。

インクルーシブ週間での取組の一つとして、学校公開日に、脳性まひとたたかいながら、ポップバイオリニストとして活躍されている式町水晶さんをお招きして、講話と演奏をきく時間を上・下学年別に設けました。今回の講話と演奏は、PTA 家庭教育学級の一環として、子ども達と一緒に保護者の皆様にもきいていただきました。



予想以上にたくさんの保護者の方にご参観いただくことができ、驚くとともに、とても嬉しく思いました。マネジメントをされている式町さんのお母様からは「保護者の方と一緒にきいていただくことはありますが、こんなにたくさんの方がいらっしゃることは、そうありません。保護者の皆様の意識が高いですね」というお言葉がありました。

私もその通りだと思いました。子ども達は、病気とたたかいながら、笑顔でバイオリンを演奏する式町さんの姿が印象に残ったようでした。「生きる希望」のようなものを感じたのではないかと思います。お話の中から、私が心に残ったことを2つ紹介します。

「自分を大切にすると同じように、自分の周りの人を大切にできなかつたら、自分の『夢』はどんどん遠ざかっていくんだよ。」

「周りの人に感謝することはもちろん大切なこと。でも自分自身にも感謝をしよう。みんなは十分頑張っているよ。かっこいいよ。自分に自信をもってください。」

学校では、インクルーシブ教育・人権教育につながる話（「特別支援学級」ってどんな教室？／自分自身を大切にしよう・嫌なことは嫌と言おう～プライベート・ゾーンの話から～）を朝会でしたり、図書室に人権に関する書籍を展示したり、学級によっては道徳の時間に学習したりなど、それぞれで取り組んでいました。インクルーシブ教育・人権教育は全ての教育活動を通して、そして年間を通して取り組んでいくものと考えますが、こうした期間を設定し、子どもも大人も意識して行動したり考えたりする機会にしたいと思っています。ある学級の学級だよりの一部を紹介します。

今週はインクルーシブ週間でした。そのため道徳の時間を活用してみんなが安心して過ごすためには自分たちには何ができるのかを考えてみました。

「どんなかんじかなあ」「みえるとかみえないとか」という絵本の読み聞かせをしました。その内容から、いろいろな人がいることを確認してみると、みんな違いがあるということに気づきました。「一人ひとり違うことを忘れずにいよう。」「助けるし、助けてもらおう。」「相手のことを知ろう。」「相手に合わせよう。」など様々な考えがでてきました。

難しい課題ながらも一生懸命考えようとする姿が素敵だなと思いました。これからも、みんなが安心して過ごすためにどうしたらよいのかを考えられる集団になればいいなと思いました。

豊かな心 自他を尊重する心と態度(思いやり)を育む取組

ちょこっとでも
大歓迎！

スクールボランティア活動へのお誘い

本校では、年間をとおして、保護者や地域の皆様のご協力を得ながら、教育活動に取り組んでいます。PTA 活動はもちろんのこと、スクールボランティア活動もその一つで、様々な場面でお力をいただいています。スクールボランティア活動は、小田原市は全国に先駆け、平成18年度から国のモデル事業の指定を受け、酒匂中学校でスタートしました。約20年の歴史があり、小田原市の学校教育の特色の一つであると考えています。

“地域の大人”の方に子ども達に関わっていただく機会は貴重です。教職員とは違う立場や視点から子ども達に関わっていただくことは、子ども達が安心して学べる環境を整える意味からも大切なことだと思っています。また、お願いをする立場からではありますが、ボランティアに来ていただくことで、お子さんのリアルな日常の姿をご覧いただくことができ、友達とどう関わっているのかもわかった」「同じクラスの保護者の方と話すきっかけになった」というお声もいただきます。「学校は敷居が高い」という声をききますが、スクールボランティア活動は、その敷居を低くするものだと思います。

「毎回は難しい」「申込みの方法がわからない」「慣れている皆さんの中に入っていきやすいだろうか」など、ご都合や様々なご不安もあるかもしれませんが、1回きりのワンポイント・ボランティアも大歓迎ですし、こうしたら参加しやすくなるというご意見も大歓迎です。持続可能で参加しやすいボランティア活動になるように、コーディネーターさんのお力をお借りしながら取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。



コーディネーターの小嶋さん（左）と府川さん（右）です。ボランティアの輪を広げるためにご尽力くださっています。今年度コーディネーターだよりを発行して下さっていますので、ぜひご覧ください！

地域とともにある学校づくり 持続可能な PTA 活動の実現とスクールボランティア活動との連携